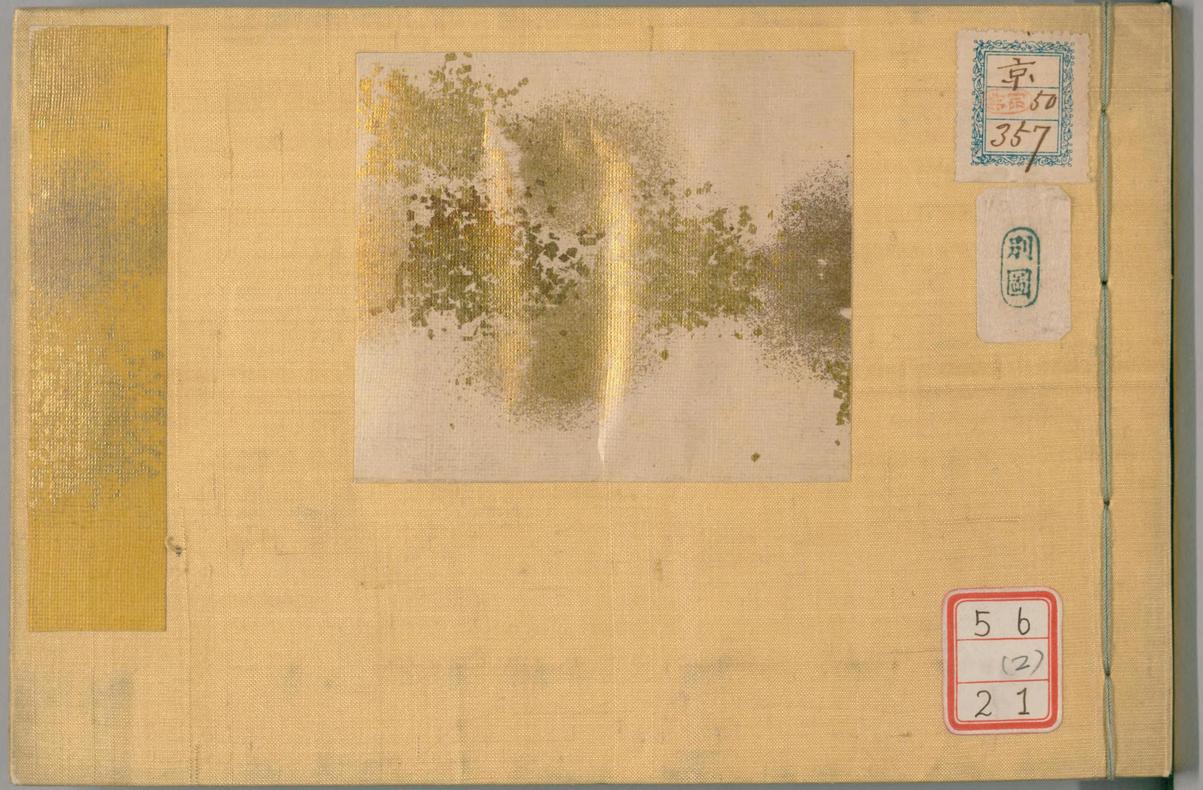
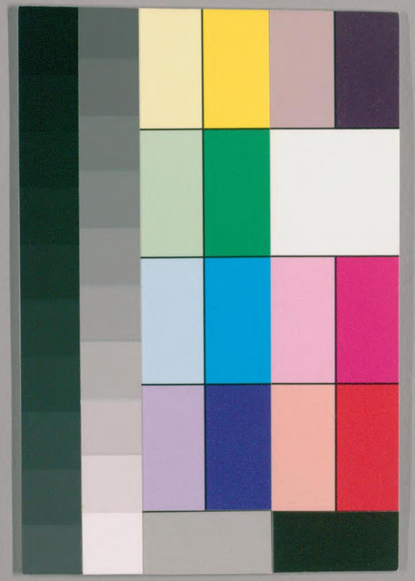




国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

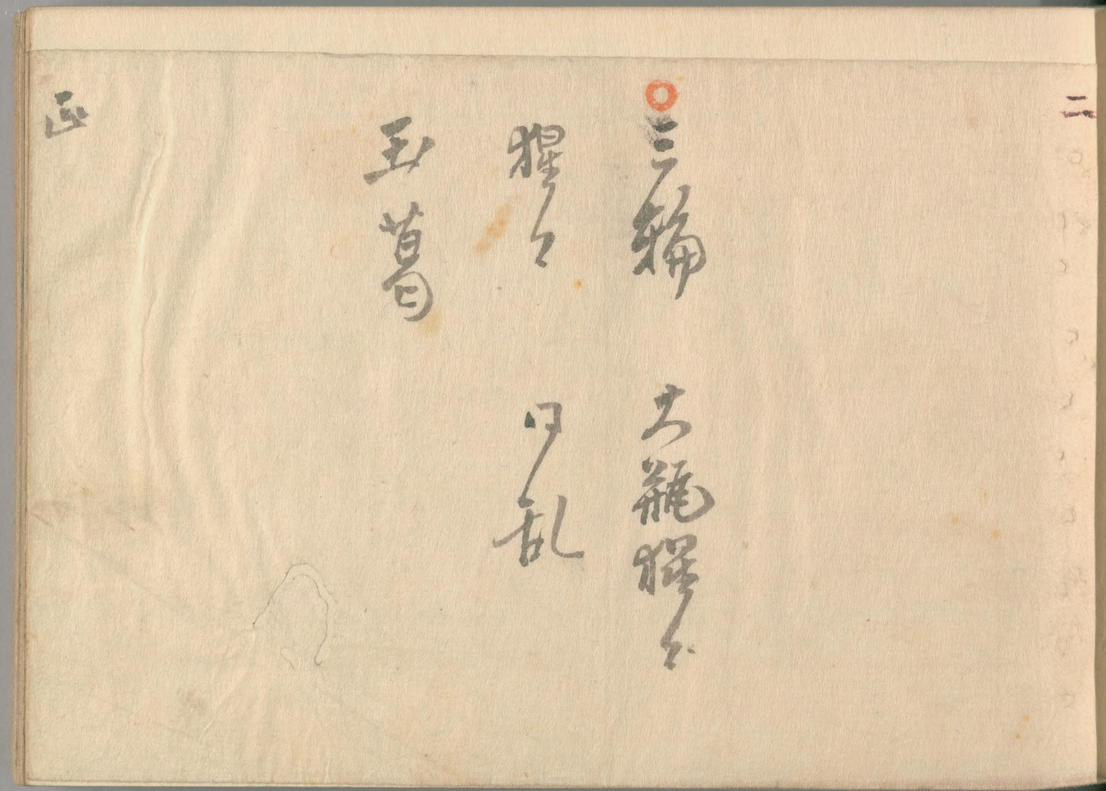
ガラス使用

帝国図書館蔵書

6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

三輪

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

三輪

装束之覚

作物出ス
服僧一人　角帽子　厭斗目　水衣キナガシ
　　珠数
シテ　面小面　鬘　同帯　唐織キナガシ
　　珠数　木葉
後　面小面　黒笛　金風折（黒ニテモ）　着付箔
　　長絹　大口　扇

雛子方坐付作物
大ノ前ヘ出ス

シテ出立看流左ノ手ニ
木ノ葉ヲ持
モチ
右ニ扇
持出ル

次第ニ段
聞出舞
基本向ヘ入
シテ柱ヲサ
キニテ正面
ヘ向足ヲト
メ左ヘトリ
大ホノ方ヘ
ムキ詰

舞附

シキミ作リ名物ニテハ無之シキミニ不限ラ
木フク　モチナドノ類　相用ユ

いや成者ども所をとゝ稱するもの
おもひは　次才女　みさゝ乃　山もとみち
もなしし〳〵　ひとりのおくを
尋ん　地次第ニ正面ヘ向ノ　上カミル　しるべやらうせう御定
こゝよの中〳〵に身はのこる

深ク出シ上キシヲ捨ムル時モ同様ノ
形ヲ深ク出シ上キシヲ持右ヲ手腰ヘ

いくしほの秋をうたひしあさ霧
しやなす事なくていたづらに
うきとし月をこゝのさとに出
海ぬしの女かくは　詞　右ヲウケル　又山ゝけ
かりんひん僧都とこゝにてき人
のはのおもはいつも思ひあり
はるをたゝくまくせいは　正面ヘ直シ左右ト出ル　ひろもの
秋をまやとおもひは　ワキセル　さんこう
にさるこうん乃身をいつき
こうこうにあしき一夢ん乃雲
をたく山田もる僧都乃身こそ
かなしけれ秋をぬしたゝふ
人もなし　女詞　ワキ坐ノ方ヘムキ詰　いりにはあんしつ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

女 なせさいとのもう何人なりとも
ワキ 志んしゆしんの 女 人なるや
上ゲ 日 さん候をさとさ梅の神し
らちやりまあひけくてうちらう （立作物ノウシロヨリ出）
まこりちやくまある忌ほしらり （シテ柱ノソバニテ正ヘムキ居ル 初心ナレバ正ヘヒラク）
きゆもしたその上ふりけ我らか
あらふしかつんへ申ふるしきなの
（シテ作物ヨリ出ル 跡ニテ引廻シ後見ヨロス）
此事や （クリ 地 中ヘ行大小ノ前ニ立居） それ神よのむかし
抑諸はまり代の衆生の為さいさ
方便のことさまさまくまちて
よのためなり （シテサシ） 中にも此
末世濁世の人のやみまて神力まれ
下日 立ちよくのちりかましはりあらし

おもふはあし川のやまとの歌に
としるおかしぬのまの首や
ひらしをとこめし玉つくきわかぬまを （ワキヘムク）
を教ふるに （メモ正面ヘ） されば世にふ人のうには
くもしたひる人へをあまよのむつ
ことふ我氏いふあるる也 （カヘニ） かすりかく
とし月をおくる身のひる （ヒラキ） ともに
何そうは玉の （左右ノ赤込ヒラキ） ならなるなすりてうらしむ
まいぬはいそあしんおほき事
なりたる （角へ行） おもしくはここしる
へかちきりとこむへ （角ニテ右ヘ廻リ） しとありしら
いかの人 （角トリ） のくろへりふやう宮もを （左ヘトリ）
くにはちつらしのまりてよるを みや

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

ちからもなんのうらみ　ワキ（ムク）　十二テ正面（ヒラキ
ましまさもこそしれ　ワキ（ムク）
ありとも　面直シワキ坐（行
ワキ（ノ方（左右ト出
初瀬かくもいさむる別路の
古（カヘリシテ柱ノ方（ヒラキ大小ノ方（行
くるしさふ嵐の雪をさえんと
左（ヘリ正面（向ナガラ扇
下ヨリ上ヘアゲ見
てをさまきかをりをつまもせ
扇サゲヨコヘ見
かををこち分く跡をひらく
上女　上ノ扇
ておくつひ　ワキ（込
まつ青柳の
大左右
いとちりく　日
もすかやとくや玉
ワキ（込
あのうちもふさ〳〵ふの
古（方ヨリ出ナガラ左ノ扇
カヲ出シ扇ノ角（左ノ手
鳥渡ハ
いとくりうし　大キクノケ左ノ方見ナガラ左右ト右ノ方（出
初穂ぶやまもりとの神
作物（ヒラキ
うきや　杉のてこえふこまりうり
作物ニ向ニナガラ身ヲ正ヒラキ
こいをもあさなゆふなやちきりしく
古（下リ
面（ムキ　行カリ　左ヲ引扇出シ見
のそうきこのこちいこのこころきのこり

古（ノリ込
しよきぢでのおるしおもきも
ワキ（ムク
よそうほふ　西下ゲ心持クワロキ
なてもつりしや
上ニ記
寅申ふうきふうかうゆすか
なてそしほのうちあをしも彩も
心うる　ワキ（ムク
りあいそや　ヒラキ
くさん　地
正（直ニ出
ものいそとうたうたひ
ヒラキ
神をいさめてやをよ　クワロキ
幣持三足正出
海川の神あそびそやからの神

▲コノ合ニ足
作物（向イ出
ちはやぶる神代ト
詞ニナガラ左
右左ト振
アリイタヤキ
神楽ニカヘル
序スニテヨ
ツハイアリ
上カ扇
神楽あ
扇横ニテ角（行
うそく　地　神あり
角ニテ扇白ハニアテテ左リ（廻リ
あそるく　ワキ（込
ここやのもと
作物方ヨリメニ作物（向イヒラキサニ出下ニ居
やをよろづの神

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

僧都ほとく貴き人乃住入給ふ窓よりつ
ゝ樒あかの水を汲くるも泪合
も又来らんや思ひは　山頭にハ
夜孤輪の月を戴き洞口には
朝一片乃雲を吐く山田もる僧都
乃身こそ悲しけれ秋はてぬれど問ふ
人もなし　いかに此庵室乃うち
へ案内申さん　案内申さんと云
もと在する人乃　山影門に入を
推ども出でず　月光地に敷いて
掃へども又生ず　鳥声に夢覚めて
老生に静かなる山居　誰そや
戸をたゝくさへもさびしき

つもらるゝ罪をたすけてたび給へ
上哥　秋さむき窓乃うち〱軒の松風うち
時雨木乃葉かき敷く庭の面か
門ハ葎やとぢつらん下樋乃水音
も苔に聞えて静かなる此山住そ
さびしき　女　いかに申上べき事の候
秋も夜寒に成候へば衣を一重給わり
候へ　ワキ　安間乃事此衣を参らせ候へ
扨々御身はいつくに住人ぞ　女　わらはの
住家ハ三輪の里山本近き所なれば
其上我庵ハ三輪の山本恋しくは
訪ひ来ませ杉たてる門をしるしにて
とも不知宮のうちへ入らせ給ひにけり

三輪

装束之覧

一ト通リノハ矢田彌助ノ通リ故コニ記サズ
杉立作物一疊臺吾之

又

初シテ　面深井　髪　同帯　着附箔　腰巻　腰帯　黒骨扇
シテ水衣　水桶ニシキミノ葉ヲ入　持水桶ハ加茂同神ニテ末社）

又

後シテ　面同所　髪　同帯　着付箔　腰巻　長袴　彌絹ノ内
腰帯　風折　黒骨扇

又

面同所　髪　同帯　着付箔　緋大口　腰帯
袷狩衣　黒骨扇

水桶ヲ持時ノワザ

- 戸ヲヨシアケテ這入心持ニテ（戸ヨリ二三足中ヘ行）
- 柴ノ折リ戸ヲ押ひらき（下ヨリ出ス時水桶ヲ出シ見ル）
- 左ノコシヲ心持ニテヨキ上リワキヲ見（中ニテ左ヲケテヤキシカト見）
- 花ヲ（出シ）
- 水ヲ（出シ）
- 汲ンデ（出シ）
- 上ケ（出シ）
- 合掌（出シ）
- 下ヲ（出シ）
- 向ヒ（出シ）
- 礼ヲ（出シ）
- 仕ル（出シ）
- 扇前ヘ出シ（ヒロゲ）
- 立ツテ（出シ）
- 扇ヲ（出シ）
- 上ケニツヅカニテ（ミ出シ常ノ通リ）
- 扇前ヘ出シ（ヒロゲ）
- 立ツテ（出シ）
- 扇ヲ（出シ）
- 上ケニツヅカニテ（ミ出シ常ノ通リ）

又

- 八手代ヲこめ（扇前ヘ出シヒロゲ）
- 立ツテ（出シ）
- 扇ヲ（出シ）
- 上ケニツヅカニテ（ミ出シ常ノ通リ）

又

作物前ヲ目付ヨリ向左ヲミヒラキ

- おゝ風さふ（左ノ足トモニ扇ヲ上ヘツヾク前ヘ出シ見）
- 立ツテ（出シ）
- 扇ヲ（出シ）
- 上ケニツヅカニテ（ミ出シ常ノ通リ）
- 花ヲ（出シ）
- 水ヲ（出シ）
- 汲ンデ（出シ）
- 上ケ（出シ）
- 合掌（出シ）
- 下ヲ（出シ）
- 向ヒ（出シ）
- 礼ヲ（出シ）
- 仕ル（出シ）
- 扇前ヘ出シ（ヒロゲ）
- 立ツテ（出シ）
- 扇ヲ（出シ）
- 上ケニツヅカニテ（ミ出シ常ノ通リ）
- 扇前ヘ出シ（ヒロゲ）
- 立ツテ（出シ）
- 扇ヲ（出シ）
- 上ケニツヅカニテ（ミ出シ常ノ通リ）

ゐをひくてきいり（身ヲ退シ目付ヨリ方ヘ）
（向ヒテキリ）
（大左右）
柳のいと

おりく　此末常ノ通リ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

舞附

●左ニシキミヲ持チ右ニ扇ヲ持チ次第ニテ出シテ柱ヨリツヽケ一ツニテ出ニツメノカシラヘカケテ左ノ足ニテフミトメ半ヨリ右ノ足フミヤケ大小ノ方ヘ向キツヽケ一ハイニ左右左ト三足ツメ子切キヽ三輪の山本トウタイ出シ地次第ニ正●又此山ニゲタ右ウケ●よそ又まいらせやト正 呂ひゅ左右ト正ヘ二足ツメル

水桶持ツ時ハ右ニ珠数持チ左ニ水桶モツ出ル時ハ右ニ珠数持チ左ニ水桶モツ

朝一所の雲とかや山田もる僧都の身こそ悲しけれ秋果てぬれば訪ふ人もなし　いつまで山居の身ならん

秋ハテヌレハト脇ノ詞フヲキク心ニテワキヘ気君

カケナガラワキヘムク

爲東內户ゆん　東肉户さん念ふ

もとさなきも人の　嵐　山影門に入て推せども出でず　月光地に敷いて掃へども又生ず　鳥声とこしなへにして老生と静かなる山居　柴の戸さしこもりさびしさも…

□右ノ足少シフミ出シ左ノ手ニテ戸ヲアケル様ニシテ左ノ足横ヘフミヒラキ

◇ワキヲシカト見テ中ヘ行右ノ足フミ出ル時シキミヲ出シ見大ノ足フミ出シナガラ下ニ居シキミヲ下ニヲキ

⊕左ノ腰引心持ニテワキ上リワキヲ見

⊠ワキ水衣ヲシテノ二ヘエナゲ出スツレヲソバヘヨリ下ニ居両手ニテ持イダヾキ荒シやトウタフ

あら〱罪をたすけてたび給へ（ワキヘ合掌）

青　秋さむき窓の内軒の松風うち時雨木の葉かきしく庭の面かどハ葎や閉ぢつらん下樋の水音も苔に聞えて静かなる此山住ぞさびしき

女　いかに上人に申すべき事の候

秋も夜寒になりて候へば御衣を一重給はり候へ　ワキ　安き間の事此衣を参らせ候へし

水衣左ヘ持カイコミ脇ヲ見さらバト詞イ此帳トカヲサゲ詞切リ立右ヘトリシテ柱ノキワヘ行時ワキシバラクト詞フム

女　嬉しやさらハ御暇申候はん　ワキ　暫く　さて御身はいつくに住む人ぞ

◇此カケ次オ二右ニテモ左ニテモ行ナリ三幕ノ方向ナガラトメル

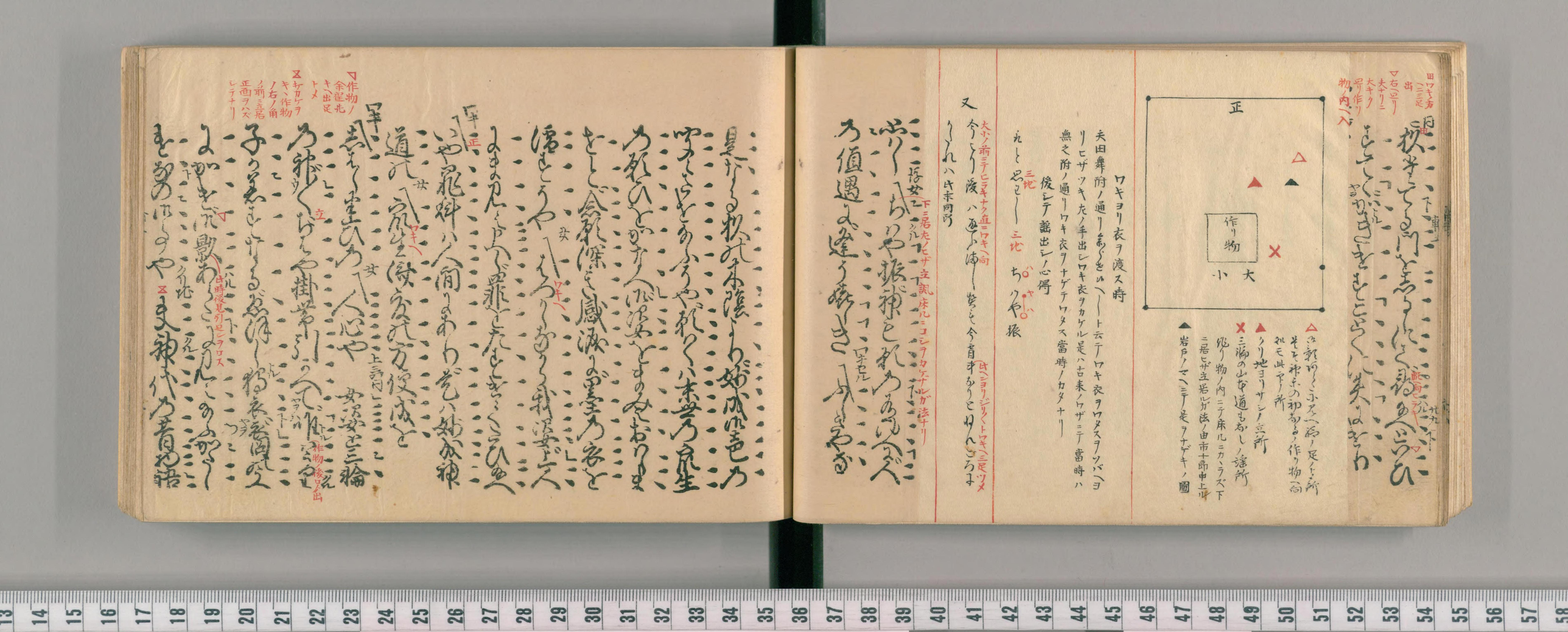
女　わらはが住家ハ三輪の里山本近き処なり　そも我庵ハ三輪の山本恋しくハと

讀…とハ…

とも不審の思ひをなさバ…ひきませ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

秋果也れハ今称あら山居にワキノ方へ向イ居レセ宗垣ノ外故ワキヘ
シツカリト気ヲ通シテ居ルニハ不及但向居リ試ヲ也

● あおしくて通ひ路をぬるいとる事あり（左右）（二重ヒラキ）（本切）
さ同しくも（角ヘ行）
初メ又ハ三番目ニスルトキハ太リ通リ方切ル
ちそそも（両手ヒロゲアトヘ／少シ下リ）　おさ尚しや（身ヲ作物ノ前ヘ行）
ちきろんのちを見ゆる（扇ヲタテニツム子ヘアテ左ノ手ヲ夫ヘ／ツツカニ様ニ作物ヲシカト見）（上ミ）
糸のミどりありしかり（同断）

又

□左右左ト
ワキヘツメル両手ヒロゲタツ足ニシタガフテヒロゲル

和国の翠々とこま婦乃着ならち（ワキヘ）
よとこめらお掻きわねなとたのちあるに
されし此人のるのへまふひるみさ（右ウケ）
約んむりしたれ身へかすらねよまりに（出ル）
く華月を送るもみの書をく何にそ宝
わらもありて通ひ路をぬいいら花（左右サシ込ヒラキ）
多きらの道も身同しくいふとる里の鳥り（スミヘユク）
とこむへ山有らむは人答へら信家（角トリ左ヘ廻リ）
色深く八船の花にありて余れりや和主

● ここやこトあり顔ニアテ此とト扇サシ
少レ出六ちやぶ後ニ時ノ者ノ時十リ
色白

●ワキヘヒラキテモ二足ツメテモタダワキヘ向テモヨシ

あんなうはいおあかぶ典かも今宵月（大小ノ前ニテヒラキ）（ワキヘ）
ご聞也と懇の語も八流るるめきてし出（左ノ引ヨリ脇ヘ左右左ト三足ツメル）（正サキヘ左ヘヨリメニ出）
よ端る本と知んぬらる好さ（ミ）
舊きよ見とそら付く跡とわくてある（大ナリニテヲフセテ下ゲテミル）（大ナリ二目付柱ヲミテヒラキ）（正ヘサシ込ミ）
ひとりら青柳の糸あらく彼やし（上ゲ上）（太左右）
やおれ乙のかたにそれにみ薬うれ花てし枝（サシ込ヒラキ）
よい山おれの神道や扱れの下枝よふるかう（作リ物ヘ出ヒラキ）（作リ物ノ角ヲシカト見）
こハうも御まりや奥わしへゆ姿かうきぬ（三両手ヒロゲ跡ヘタラタト下リ）（ツクリ物ヲシカト見）
これを称りそわ三輪の杉の下と見えるは（右ノ リ）（ワキヘ）
つまて紀しやうえ有の別さの相あは（ツレ面下ゲクツロギ）（上ロミ此）（シテ柱ノキワニテ正）
よ付くも法の為るあそも乱みふ
迎神代の和語おあくいや乳しちや人
とあん（出ル）出ん仏山岩や乃ちら初かれ

△右左ノ足カケナガラ幕ノ方ヘ向ヒラキ又ヒラキナクヲ左ノ足フミカケマクノ方見テモヨシ
△笛ノ方向ナガラ作物ノ前ヘ行
⊕作物ノ前ニテ目付柱ノ方向左ヲフミヒラキ右ノ足ト二足ヒ二肩ヲ前ノ上ヘ出シ
□のノ字ノ引ヨリ右ニ二足ツメナガラ両手上ヨリ前ヘヨセ扇
ノ引ヨリ糸引ク様ニ左ノ手ノケ
⊠レツカニサシ廻シテ出山本ト目付柱ヲサシ廻ス心ニテ右ノ方ヘ廻リ
⊖左ヲカケテ作リ物ヘ向作リ物ヲ見
⊗身ヲカヘテ作リ物ノ前ヘ出キヒラキノ振ニツ手下ゲ
▼左ヲカケテ高右ウケナガラ肩上ヨリサシ込ム様ニ前ヘ出シ見

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

大瓶猩々

装束之覚

シテ

一面ドウミ　襟浅黄　着附箔　水衣　腰帯

黒頭　鉢巻黒　扇子

後

一面猩々　襟赤二ツ　着附赤地縫箔　半切赤地金入

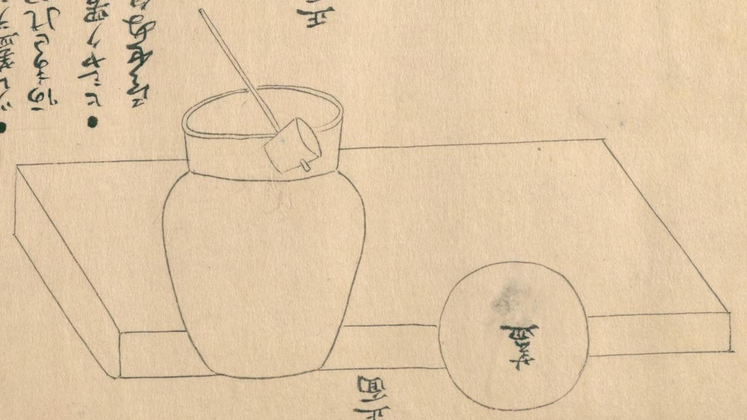
上着唐織赤地　腰帯赤地　赤頭

鉢巻赤地金入　扇子　ヒシヤク腰ニサシ

ツレ四人

一面猩々　襟赤二ツ　同断

瓶　一畳台　ヒシヤク壹本



シテ

見こつゝ思想ことも忘らぬ

浪まより何らいれ出る目新

ワキ白

今日の市人を何

とてをそくまり給ふを

シテ白

姫しや

ワキへ向

舞臺中へ行下居

いづくとの酒殘愛しまり

上音同

正琴詩酒と中のも滿ぬとも

人思しいつとかいらぬ

就ニテ幕上ゲ出シテ柱ノ先ニテトメ

朱 シテ

藍真 初テツレ二人

墨 後ノツレ二人

二足出ル

正面ノ端ニ付テ置ク

ゆへ蓋ヲトリ置処ノ圖

向ヲ見ル樣ニ木梢ニ向ヲ

ヒシヤク置処ノ圖

ヒシヤク置ヲ切ヲ向ヲ

ヒシヤク置処ノ圖

ヒシヤク置ヲ切ヲ向ヲ

正面

正面

酒切にんにさけを出せし
こし方乃人忠こゝ詠に引
かへ毎足を拳にもさかつ
き詩を作るにも作かつき
唯酒のミ忠友をかり麻しか
さてり実帝（ワキへ向）人の神を笑
らむ（早詞）此（正）国といいつの
人とも如きまつさ今日ハ

酒名をなかりたてしませ
（シテ詞）今ハ何をか作らむへき先を（ワキへ向）
澤海の紅に年久し紀程と
といつ詠そのなるか此身親に
孝名にも皇天恵憐み源口
れハ泉の壺を與へん也（居立）うこ
かひ給ふれからふらと
（上同）ゆふ（正）風の寒も近まれなく

いと海中てさらはとて行
ワキヘ向立
かうと見えしハ行ふぬり乃
右ヘ廻り
をもてゑ赤くさ海なり
海市人ハ立まされて詠
シテ柱ニテ正ヒラキ
も見えす成ハまり跡をも
中入
正
正先ニ瓶一畳
臺ヲク
見えしかはり
一畳臺瓶
後見持出ル
上日
ツレ二人サガリハ二段幕上ヂイデ
ツレサガリハ左右赤切ヒラキ
御酒とまくしく名もす
さ海しく秋の来てゆゑ

先酒と菓月恵丁詠とたや
正ヘイデ
花菓乃たやかの行くらひとへ
ヒラキ
山薄きもらちハいろく
サシヒラキ
恵菓のさうつきまへ並あ
一畳臺ノソバヘ行
きの花姫うく詠ゆゑ
下ニヒザツキ
ツレ二人
ツレ二人向合
ふしまや叶とも恵
下日正ヘ直シ
来らぬハ覚来の沖ハむう
幕ノ方ヲ向見ル
ひて我ともの なと遠う行ふ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

そやいそきゐへとも人 サガリハニテ正ヘ直シ安坐

上曰 ツレシテツレトサガリハ一段ニテ出ルサガリハノトメ左右ヘ歩込ヒラキ

又程ゝ出サガリハトメ正向 あらハ出らく

ワキヘ向 彼から婦らに姉の教い

つゝを何ゝこつむとて浪間我

舞臺ヘ入大小ノ前ニテ立ナラブ 舞臺ヘ入大小ノ前ニテ立ナラブ

まけて浪湯れ江のみきハ

とをくあらハ遠しらり

上曰 二足下り頭ヲ左ノ手ニテトリ上ヲ見ル 正ヘ直シ

ほ秋の夜月面白くく 二足下り頭ヲ左ノ手ニテトリ上ヲ見ル 正ヘ直シ

右ウケ二足ツメ みきハの浪をふけ靜里

両方ツレ臺ノソバヘ五足出ル

扇ヒロゲ扇ノ向方ヲ左ヘトリ扇横ニメウケ右ノ手ニテヒシヤクヌキ

てゝまゝ此程ゝ大原い

前ツレ二人立臺ヘ上リ左ノツレ瓶ノフタヲ両手ニテ立ヒラトリ壷ノ横ニタテカケヲク左ノフタノソトヲソトニシ内ヲツボノ方ニシテヲク両方ツレ臺ノ上ニ下イ

右ニ持臺ヘアガリ ふあらり泉のくちをゝれと

そんつしゝ瓶ヲ見ル めきゝのくり涌

臺ノ上ニ居ルツレ二人立右ヘトリ臺ヨリヲリ橋掛ヘ行

ヒシヤクニテ二ツクミ扇ヘクミ入ヒシヤク瓶ノフチニスジカイニ

なゝまゝ汲とも亀せぬ

ヲク扇右ヘトリナガラ臺ヨリヲリ大小ノ前ヘクワロキ

いつゝ何まとたハふまゝ海ふ

ハガリ舞 跡ツレ二人右ヘ廻リ大小ノ右ヘトリノ正舞ハガリ

前ニテハガリ舞 三段ノ舞 上シテ 舞トメ小廻リスグニ扇左ヘトリ安坐面ニアテル 舞トメ小廻リスグニ扇左ヘトリ安坐面ニアテル

とりや まゝ露つまり

上扇ヒラキ 下曰 左右歩込ヒラキ

て亀ぬ此泉 清きせぬ

やとに シテ 死しさつ事を

ワキヘ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

上日

正ヘ直シ二足イデ扇左ヘトリ跡ヘトリ安坐扇面ニアテル

見まてなりや酔ふきゆ見

立橋ガヽリフシ
立基ノ両方ノ
立基ヘアガリ

跡ツレ二人扇ヲロシ正見ル
扇ヲロシ正見ル

乃覚ると思へハまゝ起何

カシノヘバヘイテ正ノ瓶ヲ見ル跡ツレト同シ事
ワバヘ行立居ル
ヒシヤクヲトリ扇ヘツクミ

りいのちもえのひ扨

扇前ヘイダシ右ノ方ヘ右左右ト面ヲツカヒ

忠酒を道俗男女に称さす

正ヘ直シ
ヒシヤクヲ瓶ノフチニヲク

きゝ見もとのいつゝに納

右ヘトリ基ヨリヲリ　正ヘ直シ

あきハいつきゝ見もと

シテノ通ナカレアシ
左ノ方ヘナカレ
右ヘナカレ

前ツレ二人サシ橋ガ
サシ右ヘ

ハよろ〳〵よろ〳〵とくり

カサシ小廻リ正
リヘ行カサシ小廻リ正
マワリ

こと忘あく千秋万葉君

シテ柱ニテカザシ小廻リ

千代まてと千秋万歳き

赤ツレヒラキ
ツレ二人ヒラキ
正ヒラキ

みちよこと栄ふ御代

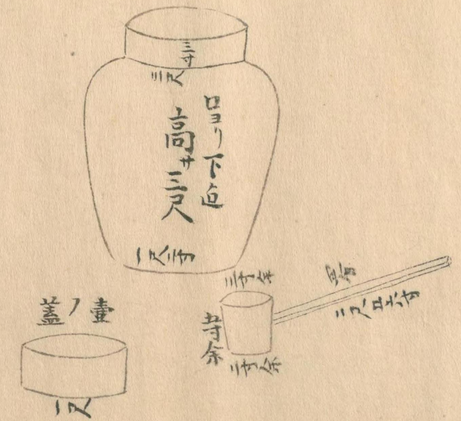
右ウケ拍子ナシ
右ウケ拍子ナシ
右ウケ

ひそ目出しけれ

トメ拍子

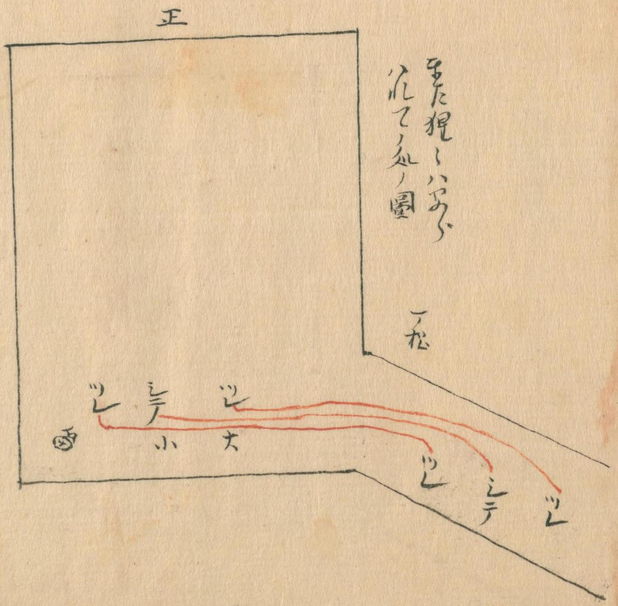
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

大瓶猩々壷

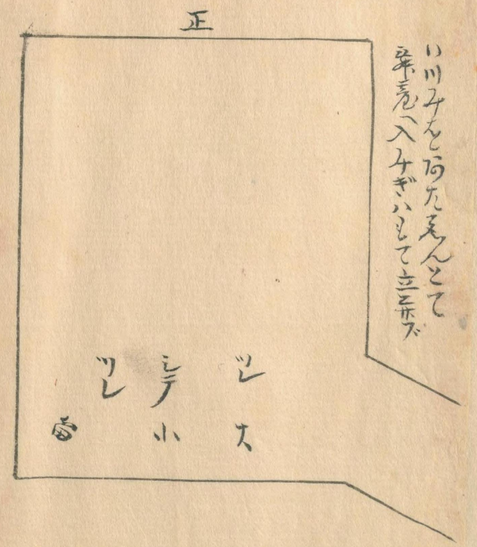


一壷絣地緞子ニテ包ムロノ中ニチツチヘ波ナ枚トチツケル玄波ハ道具ノ内ニアリ蓋ノ上ヘ屋根結ヲカケ総ノアル紋ニテ花結ビニスルヿナリ

波ハ近来無店産ハ限二帯ナ節



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



大瓶猩々

装束之覚

シテ

一面ドウジ　襟浅黄　着附箔　水衣　腰帯

黒頭　鉢巻黒　扇子

後

一面猩々　襟赤二ツ　着附赤地縫入箔　半切赤地金入

上着唐織赤地　腰帯赤地　赤頭

鉢巻赤地金入　扇子　ヒシヤク腰ニサシ

ツレ四人

一面猩々　襟赤一ツ　同断

瓶　一畳臺　ヒシヤク壹本

正

いりみを向た名んとて
年高へ入ナギハもて立ヒ来ズ

ツレ　大

シテ　小

ツレ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用

シテ

越ニテ幕ヲ上ケ出シテ柱ノ先ニテトメ

朱 シテ
藍ノ具初テツレ二人
墨 後ツレ二人

[illegible]こつゝ思ひ[illegible]ことも思ひぬ
[illegible]まより [illegible]れ[illegible]日[illegible]

二足出ル

ワキ詞

今日の市人は何
とてをそく来り給ふは

シテ詞

ワキへ向

[illegible]や

舞臺中へ行下居

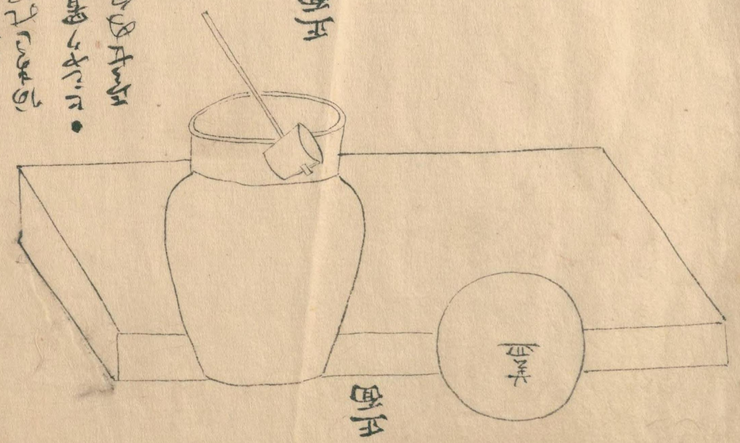
[illegible]とうちに入
いづくの酒は愛し[illegible]

上ノ方詞

正

琴詩酒と[illegible]と蹈ぬとも
人思ひ[illegible]いつとかはらぬ

正面ノ柿ノ方ヲ置ノ



・ガテ舞ヲトリ置ノ圖
[illegible]
・[illegible]ヲ置ノ圖
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

酒切けんよさけを出せし
こし方乃人恵て語に引
うつゝめ足は琴にもさかつ
き詩を作るにも作つまこ
唯酒のこ恵友をかり所や
さこり実市（ワキへ向）人れ我を笑
らむ（早同）此（正）同とハいつくの
人とも知まつ古今日ハ

（シテ同）
御名をなれりたてしませ
今ハ何をか作ゝむつまこ是は
（ワキへ向）
浮湯の江に年久し紀程に
といつ源とのなるか所身親に
孝為に是天恵憐み源に
れハ泉の壺を與へん也（居立）こと
うひ給ふれかゝふこと
（上同）
ゆふ（正）屋れ夜も近ければ

いとゆ中てさらはとて行
ワキヘ向立
かゝとゑまハ行よぬり乃
右ヘ廻り
をもて志奈くさゆ寄り
高市人に立まれて語
シテ柱ニテ正ヒラキ
もゑす成にまり跡をも
中入
正 ○ 正先ニ瓶一疊 臺ヲク
ゑまれ成にまり
一疊臺瓶 後見持出ル
上日
ツレ二人サガリハ二段幕上ゲイデ
ツレサカリハ左右歩込ヒラキ
河酒とまくし名もす
さゆしく秋の来てのこと

先酒と菓月志了語とたや
正ヘイテ
名菓乃たやを法くゝひとへ
ヒラキ
山蔵まもうちハいろく
サシヒラキ
志菓のさゝつまさへ並あ
一疊臺ノツバヘ行
まの夜ぬうく語るふ
下ニヒザツキ
ツレ二人 ツレ二人向合
ふまや此とも志
下日 正ヘ直シ
来らぬハ覚来の沖にむゝ
幕ノ方ヲ向見ル
ひて我とものなと遥ゆふ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

そやいそきゐへとも人（サガリハニテ正ヘ直シ安坐）

上日

又猩々をあらはし出し（ツレシテツレトサガリハ一段ニテ出ルサガリハノトメニ左右ヘ歩込ヒラキ サガリハニテ出サガリハトメ正向）

彼から姫らに姫の姫い（ワキヘ向 ワキヘ向）

つゝをいつこへむとて浪間越（舞臺ヘ入大小ノ前ニテ立ナラズ 舞臺ヘ入大小ノ前ニテ立ナラズ）

まけて浪湯れ江のみきハ

とそくあらはしつり

上日

ほを秋の夜月面白く（二足下リ頭ヲ左ノ手ニテトリ上ヲ見ル 二足下リ頭ヲ左ノ手ニテトリ上ヲ見ル 正ヘ直シ 正ヘ直シ）

みきハの浪をふけ靜里（右ウケ二足ツメ）

てゐまこれ猩々大風（両方ツレ臺ノツバヘ五足出ル 扇ヨケ扇ノ向ノ方ヲ左ヘトリ扇横ニウケ右ノ手ニテヒシヤウヌキ 前ツレ二人立臺ヘ上リ左ノツレ瓶ノフタヲ両手ニテ立ヒラトリ壺ノ横ニタテカケヲクモフタクワトヲソトニシ内ヲツボノ方ニヌヲク両方ツレ臺ノ上ニ下イ）

ふあかり泉のくちを見と（右ニモケダイヘアガリ）

そんへしらぬきゐかり涌（瓶ヲ見ル）

なかき汲ともしゐ遊せぬ（臺ノ上ニイルツレ二人立右ヘトリ臺ヨリヨリ橋掛ヘ行 ヒシヤクニテニツクミ扇ヘクミ入ヒシヤク瓶ノフチニ）

いつゝ行きとたりふき海ふ（スジカイニヲク扇右ヘトリナガラ臺ヨリヨリ ハカヽリ舞 跡ツレ二人右ヘ廻リ大小ノ前 大小ノ前ヘクツロキ右ヘトリ）

とうや（ニテハカヽリ舞 正舞ハガヽリ三段ノ舞 上シテ）きくれ露つもり（舞トメ小廻リスグニ扇左ヘトリ安坐面ニアテル 舞トメ小廻リスグニ扇左ヘトリ安坐面ニアテル）

て遊ぬ所泉（上扇ヒラキ）（下日）清きせぬ（左右ヘ歩込ヒラキ）

やとに（シテ）居（ワキヘ）さつ事無

上同

正ヘ直シ二足イテ扇左ヘトリ跡ヘ下リ安坐扇面ニアテル

見まてなりや酔ふ事ゆゑ

跡ツレ二人扇ヲロシ正見ル

扇ヲロシ正見ル

立橋掛リヲシ

立其室ノ両

立其室ヘアガ

乃覚ると思へハまゝに起ゐ

カシノソバヘイテ正ノ瓶ヲ見ル跡ツレト同シ事

方ノソバヘ行立居ル

リヒシヤクヲトリ扇ヘツクミ

りしのちもえのひ抄

忠酒を道俗男女に称さす

扇前ヘイダシ右ノ方ヘ右左右ト面ヲツカヒ

正ヘ直シ

ヒシヤクヲ瓶ノフチニヲク

其先もとのいつゝに納

右ヘトリ臺ヨリヲリ正ヘ直シ

あまハいけまもしく見もと

シテノ通ナカレアシ

左ノ方ヘナカレ

右ヘナカレ

前ツレ二人サシ橋掛リ

サシ右ヘ

ハよろしくよろしくとくり

カサシ小廻リ正

ヘ行カサシ小廻リ正

ヘワリ

こと志あく子秋万葉君

シテ柱ニテカザシ小廻リ

千代まてと子秋万葉き

跡ツレヒラキ

ツレ二人ヒラキ

正ヒラキ

みちよとと栄ふ御代

右ウケ拍子ナシ

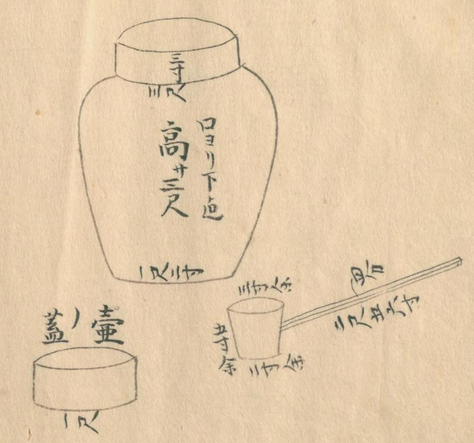
右ウケ拍子ナシ

右ウケ

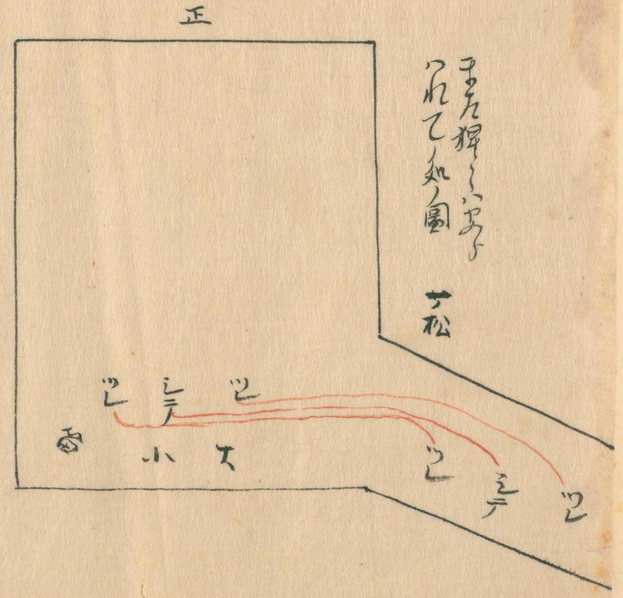
ナそ国出る日も

トメ拍子

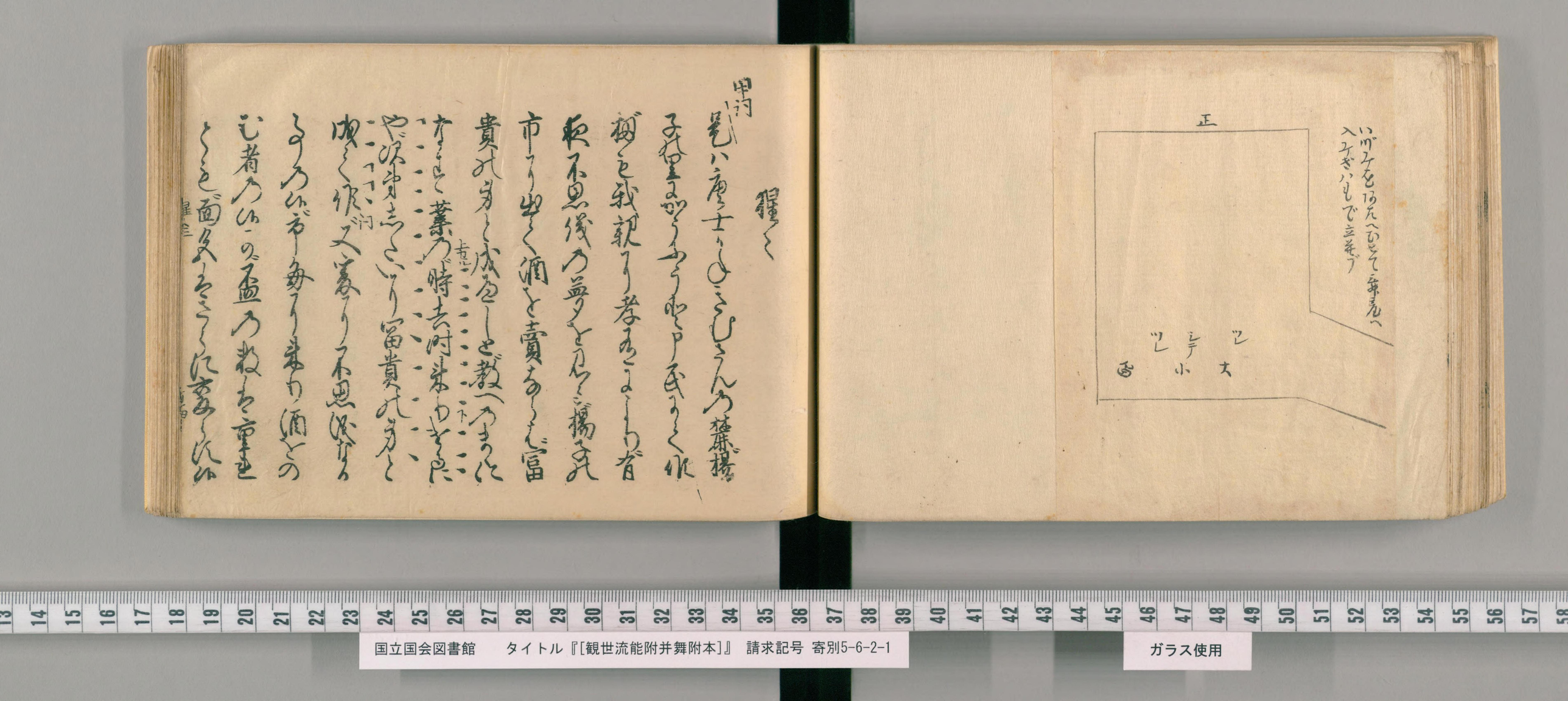
大瓶猩々壷



一壷絣地緞子ニテ包ム口ノ中チフチヘ波
十枚トチツケル左波ハ道具ノ内ニアリ
蓋ノ上ヘ屋根結ヲカケ総ノアル紐ニテ
花結ビニスルヿナリ
波ハ近来無御坐ハ段市ナ御
トシ云ル



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



いげみを仍たへひとて二乗元へ
入みぎハもで立并づ

正

ツレ
シテ
ツレ
大
小
西

猩々

甲詞

昆ハ唐士りしこさしさん乃葉楊
子れ里ま如うふうれ口氏ありく作
樹を我親ゝり孝あるよしり首
板不思議乃益々を乃ゝ楊子れ
市ゝり出く酒を賣ありしが富
貴れ身と成るしと教へ乃まゝに
たまして葉乃時去時来りをもに
やゝ次第志ていり富貴れ身と
成く作詞又家ゝり不思議なる
事乃ゝ市ゝ毎ゝり来り酒をの
む者乃ゝの盃乃数を重ね
とも面々をさしに変らしに

猩三

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

かくて不思議の有様ぞかし
と尋ぬれば海中に住む猩々と
申しつる程に今日は潯陽の江
に出でくば猩々を待たばやと存じ候
潯陽の江のほとりに菊をたゝへつゝ
菊をたゝへて夜もすがら
月の前の色友まつや又かたぶくる
盃の影をたゝへて待ち居たり
居たり老いせぬや
薬の名をも菊の水盃も浮
かみ出でて友に逢ふぞうれしき
此友に逢ふぞうれしき
みきと聞く名も理や秋

風の吹けども吹けども更に身
にはさむからじ理や白菊
の理や白菊のきせ綿
を温めて酒をいざや汲まうよ
まらうども御らんずらん
月星は隈もなき所は潯陽の
江のうちの酒盛
猩々舞を舞はうよ
蘆の葉の笛を吹き浪の
鼓どうと打ち声すみ渡る
浦風の秋の調べや
残るらん有難や御身心すなほ
なるにより
いつまでも尽きせぬ

ゐなたのかの正へ直立さし　円　よりもつさし
萬代まてくの竹の紫の名酒ぞ　正先歩
めとりを直とりの発中左へすり正へ上へ上ケ出ス
秋の和のさりつさのきとりさ　左へ歩ク廻リ
ゆく入江ゆりの正先へ出　アトムラくト
ゆきのうづくの下居安坐ノ前カフニアテ
の無夕名ぞ立サシテ右へ廻リシテ柱ノキ正へニラキ
ぞこにまで盡を思宿より右一向ニトメ
くたきを

神文之事

一猩々乱行之舞方傳受終過分に
存候ゆへ品々弟子習事之品々偽
之上書覚等他見他言申間敷旨
古之通日本之神儀等無之仍而
誓文如件

年号月日　　観世織部尉
　　観世三十郎尉

右大奉書切紙
上包　[illegible]

乱

ヲヒヤ、ヲヒヤリ、ヒウヤリヤアラアヒヤリトリ、
ヲヒイリツラアヒヤ、トウルラ、トウルラルララ、
ヒユイタルララ、ヒユヒタリウヒヤラ、ヲヒヤ
リイヤアラアヒヤリトリ、初ヲヒイリツラアヒヤ
トウルラルララ、ヒユヒタルララ、ヒユヒタルララ
トルラララアララトウルラ、ヒユヒタルララ
ヒユヒタリウヒヤラ、ヲヒヤリヤリトリウヒヤ
ラ、二ヲヒヤリイヤアラアヒヤリトリ、ヲヒイ
リツラアヒヤ、トウルラ、トウルラルララ、ヒユ
ヒタルララ、ヒユヒタルララヒユヒタ、ヒユヒタラ、
ヒユヤヒユヒタルララトルラララアララトウル
ラ、ヲヒヤヒタルララ、ヲヒヤリヤリトリウヒヤ
ラ、三ヲヒヤリイヤアラアヒヤリトリ、ヲヒイ

リツラアヒヤ、トウルラ、トウルラルララ、ヒユヒ
タルララ、ヒユヒタルララ、トルラララアラ
ラトウルララヒユヒタルララ、ヒユヒタリウヒヤ
ラ、ヲヒヤリヤリトリウヒヤラ三ヲヒヤリイ
ヤアラアヒヤリトリ、ヲヒイリツラアヒヤ、
トウルラ、トウルラルララヒユヒタルララ、ヒユヒタ
ルララヒユヒタ、ヒユヒタラ、ヒユヤヒユヒタルラ
ラ、トルラララアララトウルラ、ヲヒヤヒタ
ルララ、ヲヒヤリヤリトリウヒヤラ三ヲヒヤ
リイヤアラアヒヤリトリ、ヲヒイリツラア
ヒヤ、トウルラ、トウルラルララ、ヒユヒタル
ララ、ヒユヒタリウヒヤラ、ヲヒヤリヤリト
リウヒヤラ、初ヲヒヤ、ヲヒヤリ、ヒウヤラリ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

乱舞附

ヲヒヤライホウホウヒ天天（扇前ヘ出シ左ノ足ヒキ 正ニ扇ヒラキ）（左ノ足ヨセ）

ヲヒヤ。ヲヒヤリ。ヒウヤリヤアラアヒヤ（上ノ扇右ノ足少シ扇ニ出シ）（左ノ足フミ出シヒト上身ニテリ扇前ヘ出シ）（アトヘタラノ〳〵ト下リ）

リトリ。ヲヒイリツラアヒヤ。トウルラ。（足ト右ウケ顔四ツフリ）（指子フミナカラ右ノ方ヘ出ル）（シツミ）

トウルラルララ。ヒユヒタルララ（左ノ方ヘ出ル）（シツミ）（右ノ方ヘ出ル）（シツミ）

ヒユヒタリウヒヤラ。ヲヒヤリイヤアラア（指子フミナガラ手ヲ込ヒラキ）（アトヘタラノ〳〵ト下リ）

ヒヤリトリ。ヲヒイリツラアヒヤ。トウルラ。（足右ウケ顔四ツフル）（指子フミナカラ右ノ方ヘ出ル）（シツミ）

トウルラルララ。ヒユヒタルララ。ヒユヒタ（又右ノ方ヘ出ル）（シツミ）（左ノ方ヘ出ル）（シツミ）（又左ノ方ヘ出ル）

ルララ。トルラララアララトウルラ。ヒユヒ（シツミ）（左指子二ツ）（右ノ方ムキ右指子二ツ）（シツミ）（右ノ方ヘイテ）

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

タルラ。(ミツミ)

ヒユヒタリウヒヤラ。(正ニ近ヒラキ)(右ノアトヘヨロケ)ヲヒヤリヤリトリウ(正面ニテトメ)

ヒヤラ。ヲヒヤリイヤアラアヒヤリトリ。(中ニテ前ヲエケ地風ノ方ヨロケ)(地風ノ方向キ前ヲ刺カゴソ)

ヲヒイリツラアヒヤ。トウルラ。(右向キ面ツカイ)(ミツミ)(正出ル)(又正ヘ出ル)

ラルララ。ヒユヒタルララ(ミツミ)(正ニ近ヒラキ)

ヒユヒタルラララ。トルラアラフトウ(ミツミ)(右ヨリ角ヘ行)

ルラ。ヲヒヤヒタルララ。ヲヒヤリヤリ(角ヘ左ヨリ込)(ミツミ)(前モテ起シ)

トリウヒヤラ。ヲヒヤリイヤアラアヒヤ(左ノ方ヘニ三足ガレ前ノチウカケテ左ノ方ヘナカレ)(ミテ程ノ方ヘナカレ)(左ヲ引キ外ヘヨリ立テ)(ミツミ)(右ノコヘラミツメル)

リトリ。ヲヒイリツラアヒヤ。トウルラ。(足左ウ)(地風ノ方向キ)(ミツミ)(右ノ方向キ指チガミ)(ナカヲイデ)

ヒユヒタリウヒヤラ。ヲヒヤリヤリトリウ(正中先ヘ打込ヒラキ)(ミツミ)(右ノ方ヘ出)

トウルラルララ。ヒユヒタルララ。ヒユヒタメ(右ノ方出)(ミツミ)(左ノ方ヘイデ)

ルララ。トルラララアラフトウルラ。ヒユヒ(ミツミ)(右ノ方向キイデ)(出)(又右ノ方ヘ)

タルラ。(ミツミ)

ヒユヒタリウヒヤラ。ヲヒヤリヤリトリウ(正中先ヘ打込ヒラキ)(ミツミ)(右ノ方ヘ出)

ヒヤラ。ヲヒヤリイヤアラアヒヤリトリ。(左ノ膝ニテ下タヨリヌクヒ上ヒケ太ノ足ヲ右ノ膝ニテ)(足右ウ)

ヲヒイリツラアヒヤ。トウルラ。(面ツカイ面ツ)(右ノ方ヘイデ)(ミツミ)(又右ノ方出)

ルララ。ヒユヒタルララ。ヒユヒタルラ(ミツミ)(左ノ方ヘイデ)(ミツミ)(又左ノ方ヘイデ)

ヒユヒタメ。ヒユヒタメラ。ヒユヒタルラ。(又出)(ミツミ)(右ノ方ヘイデ)(ミツミ)

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

トルラララアララトウルラ。

ヲヒヤヒタルララ。ヲヒヤリヤリトリウ

ヒヤラ。ヲヒヤリイヤアラアヒヤリトリ

ヲヒイリツラアヒヤ。トウルラ。トウルラ

ルララ。ヒユヒタルララ。

ヒユヒタリウヒヤラ。ヲヒヤリヤリトリ

ウヒヤラ

ヲヒヤ。ヲヒヤリ。ヒウヤラリ。ヲヒヤヒヨイ

ヒヤリウリ。ヲヒヤライホウホウヒ

ヲヒヤヒヨイ。ヒヤリウリ。ヲヒヤラリ。

ヒウヤヒウルイ。ヒヤリウリ。ヲヒヤラ

イホウホウヒ。ヲヒヤヒヨイヒヤリウリ。

ヲヒヤラリ。ヒウヤヒウルイ。ヒヤリウリ。

ヲヒヤライホウホウヒ。ヲヒヤヒヨイ

ヒヤリウリ。ヲヒヤラリ。ヒウヤヒウルイ。

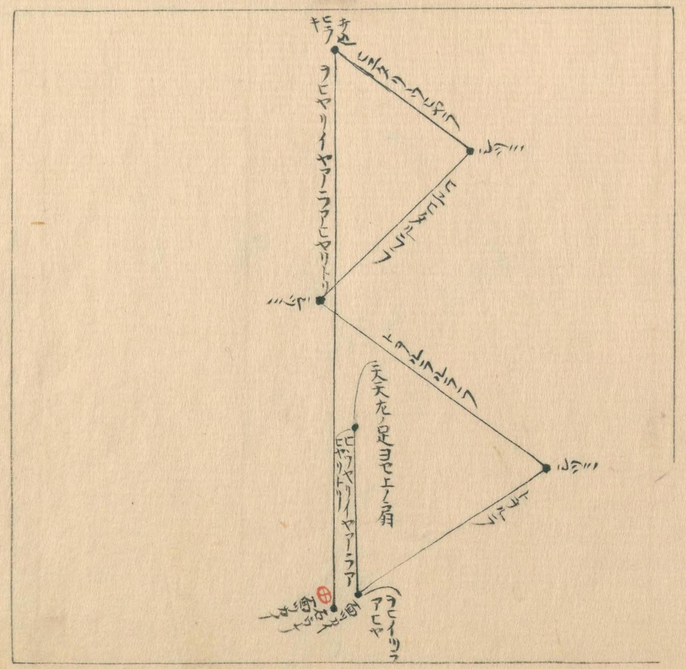
ヒヤリウリ。ヲヒヤライホウホウヒ。

ヲヒヤ。ヲヒヤリ。ヒウヤラリヤリヤリ。

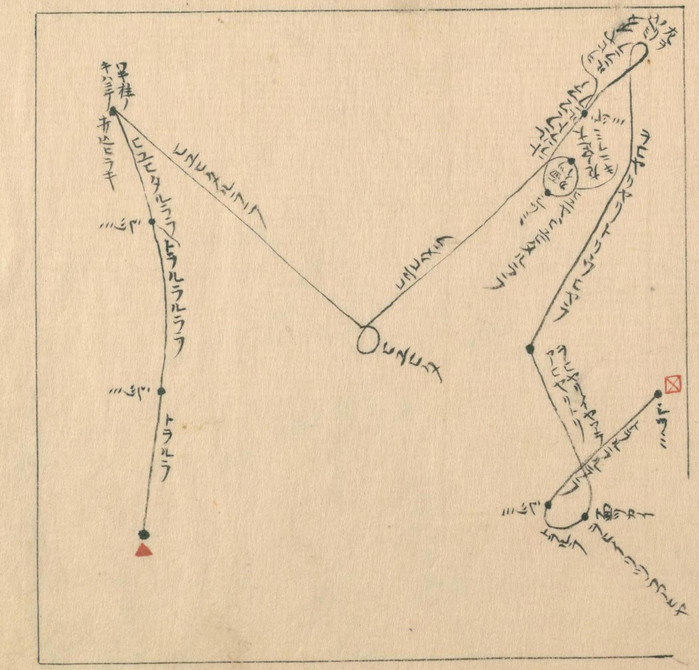
ヒウヤラリ。ヲヒヤヒヨヒ。ヒヤリウリ。

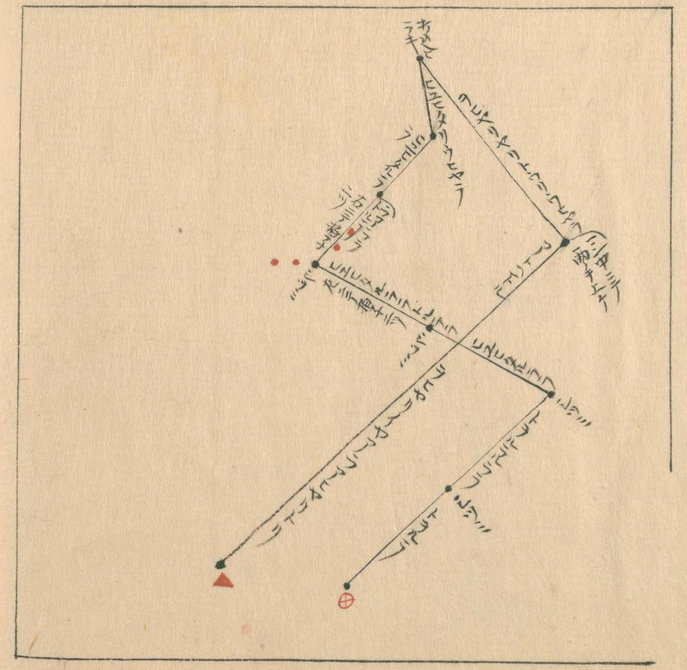
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



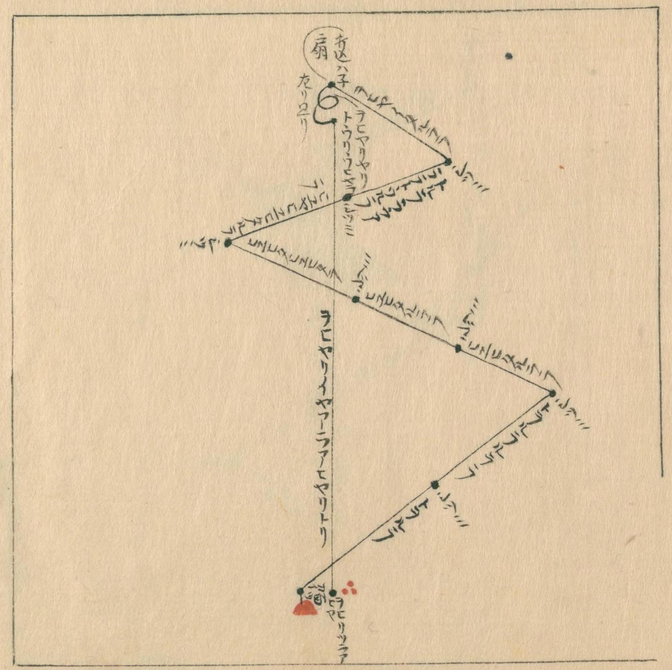
ヲヒヤライホウホウヒ。ヲヒヤヒヨイヒヤ
（角トリ左ヘ少ク廻リ扇トリ出シ）
リウリ。ヲヒヤラリヒウヤヒウルイ。
ヒヤリウリ。ヲヒヤライホウホウヒ。
（シテ柱ノキハニテ小廻リワキヘ向キ諷フ）
ヲトメヒヤラ引

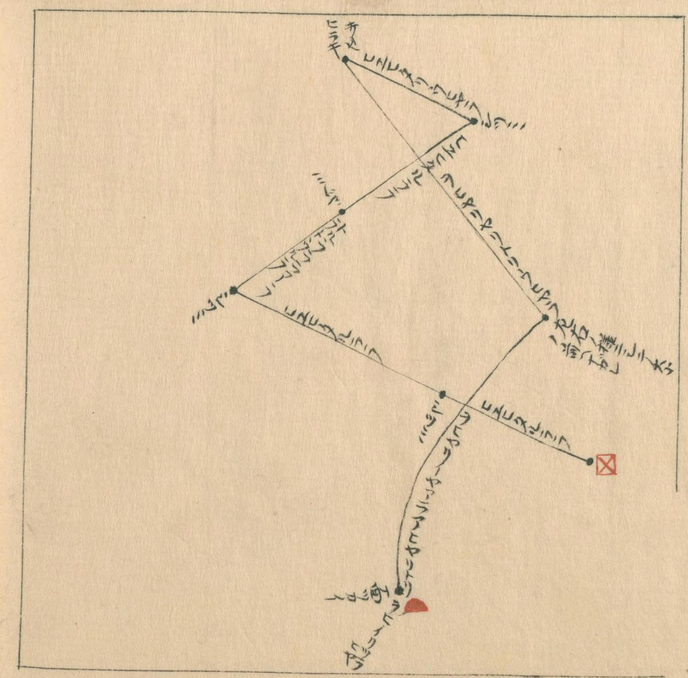




国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

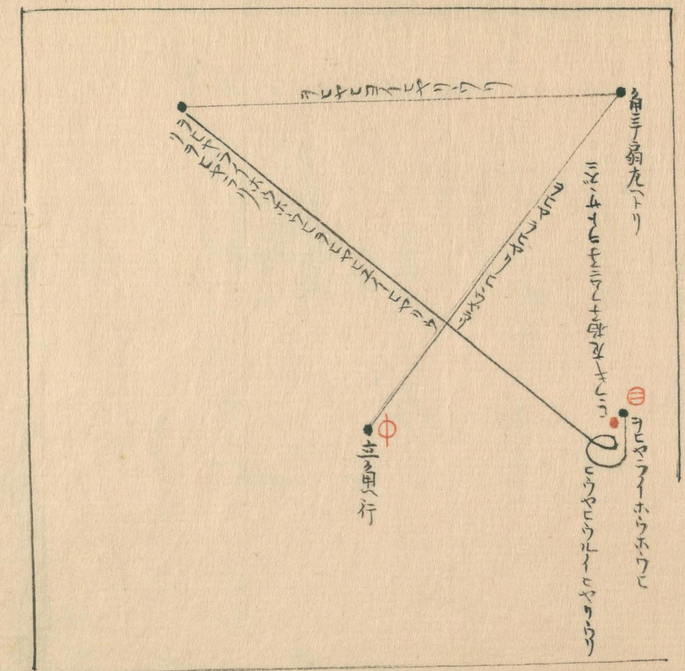
ガラス使用

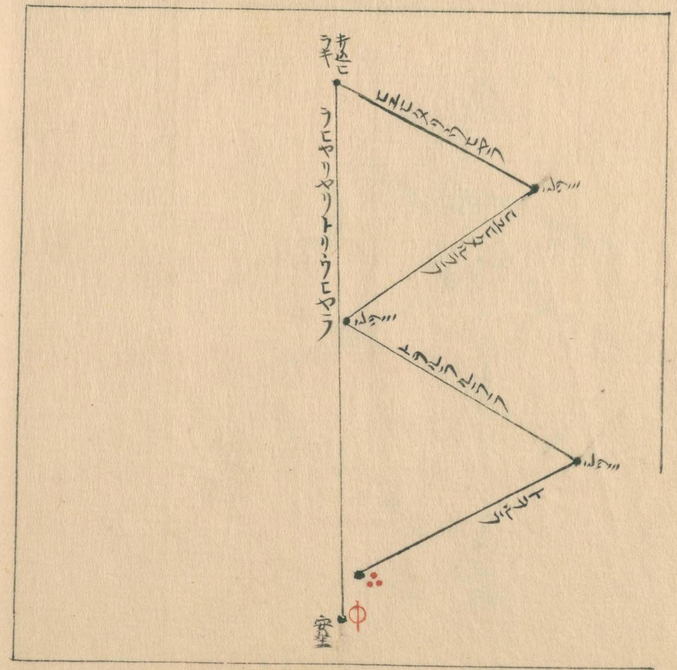




国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

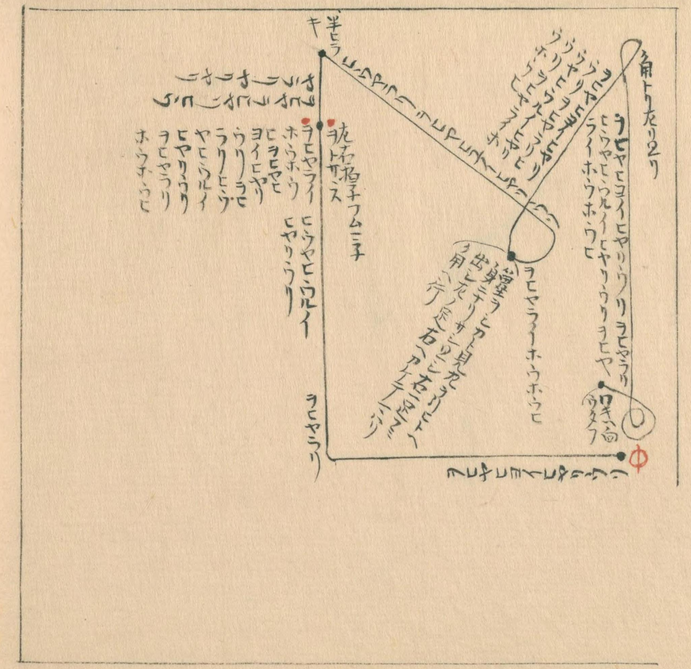
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



狸々

装束之覚

シテ　面　狸々　赤頭　色鉢巻
着付箱　半切　唐織ツボ折
腰帯　扇

下リハ二段キヽ幕切ル
出舞臺ヘ入右ウケ
左右歩込ニラキ身ヲ
直シ老ヲ思ヘヤト
謡フ

舞附

上地
老ヲ思ヘヤ〳〵　薬乃　[illegible]　菊の
右ウケ二足出
[illegible]　左右
[illegible]
歩込
[illegible]　シテ上　上
[illegible]　大左右歩込ニラキ
[illegible]　直ニ角ヘ行
シテ上　[illegible]
上地
[illegible]　角トリ
[illegible]　下地
左廻リ
[illegible]

中ニテ正ヘヒラキ
酒といさやくまぶよ　シテ上ワキヘ　まれ人も正ヘヒラキ
まらん　上地　左ニテカシラトリ見　目星を張もなし　シテ上　手ハナシ　和
身ヲ直ハ　滋陽の　上地　正ヘ出ヒラキ　江のうらの　さりも見　シテ下　右マワリ　程
ゝ舞をまゝ如よ　上地　右ウケ正ヘ出ヒラキ　芦の　紫の笛
をふき浪のつゝ　扇ヲ合　こうこ　コーン　シテ上　右ウケ　声
まゝ　ゆるうら風の　上地　扇タミナガラ右ヘ　秋の　あら
クワロギ　へやのこるらん　（直ニ右ヘ廻リ笛吹出シ右ヘトリナカラサシマハシ右ウケ舞ニカヘル）　▲シテ下　有ゝこや　（トメ小廻リメワキヘウタヒナガラ出）
▲端カリニ段ノ中ノ舞　お程をニカギリテ三段ナリ
あらの　一寸下ニ居　なるかなより　正ヘ直　はつかれ
いつゝをまゝ　ワキヘ　返しあるかる
なり　正ヘ直立　よもつきし　日　大左右　まもつきし
前代まての　朱の　紫の酒らめ　正先ヲ込
ヒラキ　とも　扇中左ヘトリ正ヘ上ヘ上ゲ出ス　のめともうらら　秋の
あれさうつきこ　左ヘ少ク廻リ　ゆもうこ　かく　合

正先ヘ出　アトヘタラ〳〵ト下リ　下ニ居安坐ノ扇カヲニ
にうまつ　足元ハよろ〳〵とよろ　此こ
アテ　るまらの　立サシテ右ヘ廻リシテ柱ノキハニテ正ヘヒラキ　まつ　いつゝ
こまくつきをぬ　右向トメ　こそめてこまき

玉葛
裝束之覚

初シテ　面深イ　カツラ　同帯　着付箱　腰巻
水衣　腰帯　扇子　掉
後シテ　面マシカミ　カツラ　同帯　着付箱
唐織脱キ掛　扇　但鬟面ノキハ鬟帯
ノ下ヨリ左右共ニ分出ス

左ニ掉持出ル扇
コシニサス一セイニテ出
舞臺ノ内ヘ入足ト
メ謡出ス　シテ下一セイ

舞附

石とも　なきふの　泊りや　和泉川の　ほとゝ　ゆこ
る　おしきぶ　サシ　私人も　これをこゝろ　たほ　時の
うらせしきふ　考ゝてこゝ　れまたゆる　右の
とてしもいさや　白浪のよるへいつくそ心の

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

月のこゝろ山ハそこともしらせし 上ヲ 唯せ
ねひとりみかき棹 雲も袖の花にのこ
上ヲ くれてゆく秋の深り村雨しく 古道
へのさひしくも人やこらん身の程も 右ヲウケ
雨の揖をこへつかせ 左右左ト出 かれき 敷ひかれ カヘシ正
ワキ詞 おしきやかは山河は山川の音 淺く
してかかも みかきるいと海つゝひをち
いさき舟に棹さに人をこれも女也
そもそ身ハめ身が人にくまし海を
り 女詞 ワキヘ 是は山 初瀬なる 浦くる
者なり 又此川は 前から 上ヲ 正ヘ 海
海とする海士に 海 もつきの川とよこ
をする 其河の辺は 江ましあるに

ワキヘ 不雪ハかさせ のひりとよ ワキ詞 河ら 正
面白の ことをかやか 実 あ海を 如
初瀬とハ 古き かかめの おとをかなるや
ちなら 又 其こくひも 浪小 海さ
ていまれの 有や 後 女 ワキヘ 何事の
それよりも 先 日 後 二足 おかの 有
上ヲ 正 不のこゝて 亀つく 本このまつせ
風もうつろのうしこのこか 日かけも
白ふひとしほの さうか 気 亀も
かくこの 右ウケ うらハの なりめよ 実 左右ト二足
出ル ひかや 面白や 聞ナカラ正ヘ面直ス 河 者 ゆへく 里つく
き 力ホ上ケテ正面ミル 東 めかき 花の とよつら 正ヘ二足出ル
彩と 絵このきり 右ヘ二足出ル 雪ハ のこと 夕面

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

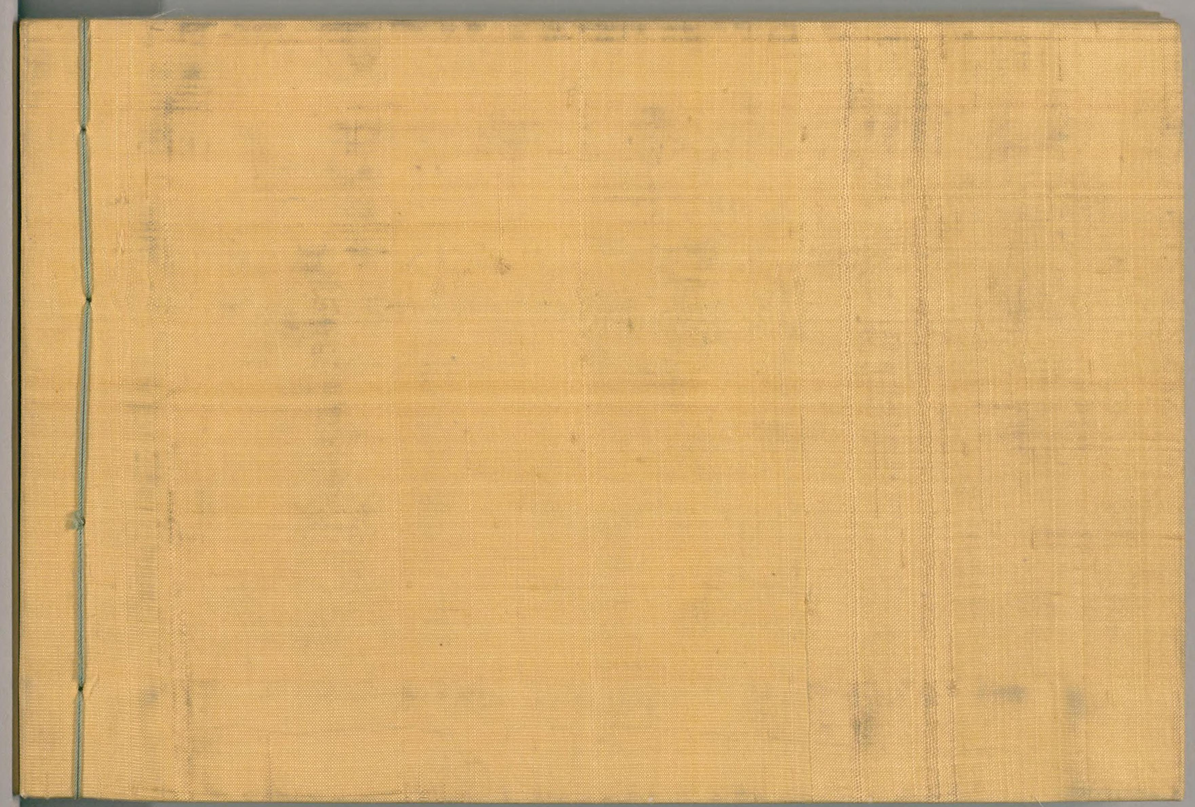
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用